

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

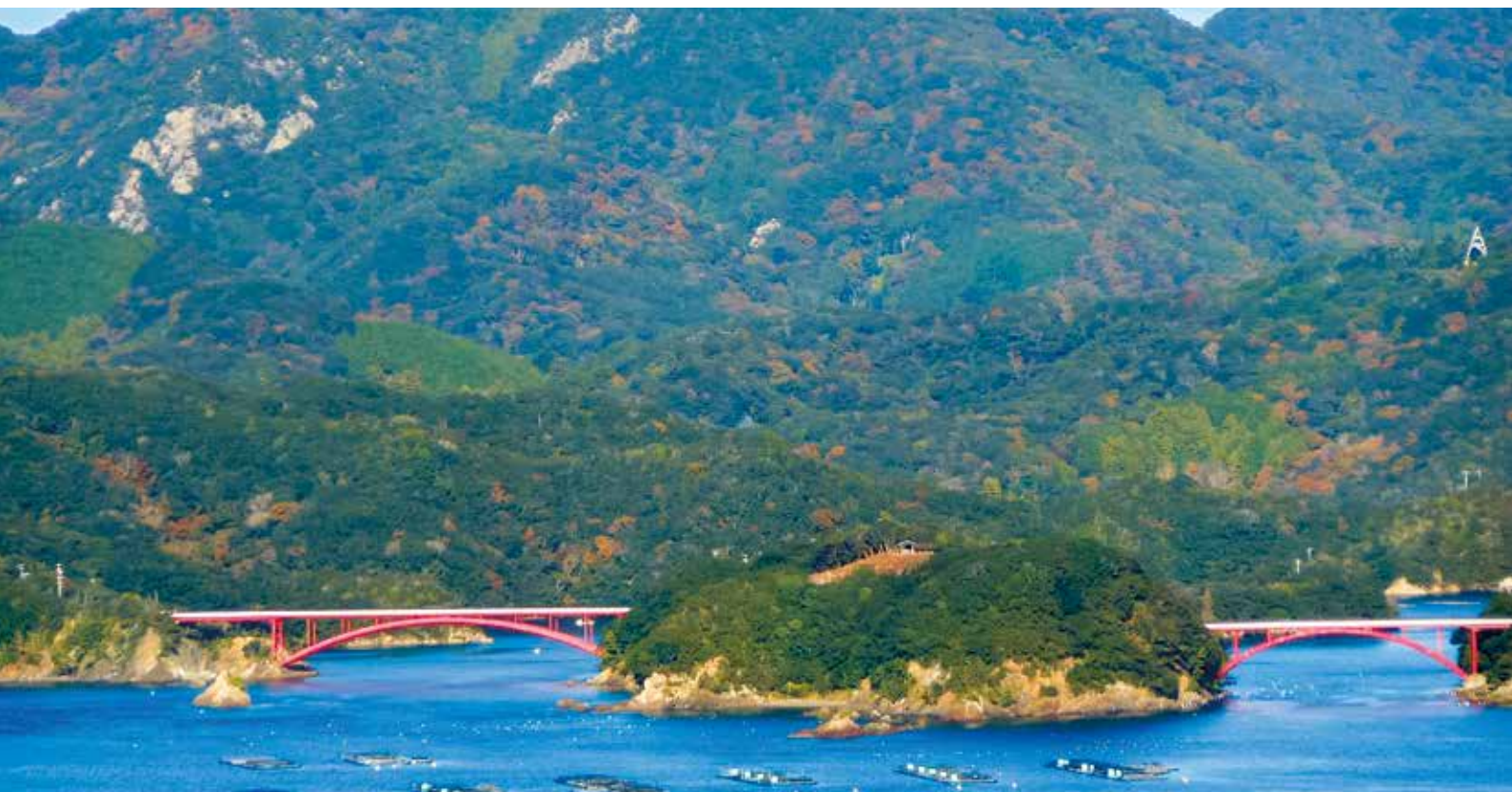
厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 95

2025.1

南伊勢町親子大橋



もくじ

| | |
|------------------------------------------------------|----|
| 新年のごあいさつ | 2 |
| 住み慣れた場所で療養生活を支援します！ | 3 |
| 胃癌に対するロボット支援手術の開始 | 4 |
| 救命救急センターの活動について／お悩み相談会をはじめました | 5 |
| 病院祭の開催について／ ミエローマ交流会（多発性骨髄腫患者さんの交流会）を開催しました | 6 |
| くわな農業まつり 2024 に参加して | 7 |
| 全自動軟膏練り機「ひとひ練り」を導入 | 8 |
| 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 | 9 |
| 患者さんの状態に応じた口腔ケアへの取り組み | 10 |
| 特定行為研修終了後の活動について | 11 |
| 薬膳給食、始めました | 12 |

CHECK!



JA三重厚生連の
取り組みを紹介!

新年のごあいさつ

経営管理委員会 会長 谷口 俊二



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

世界情勢の不安定化などにより、食料を始めとする物資の多くを輸入に頼るわが国において物価が高騰し、社会経済や国民生活に大きな影響を与えています。また、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国内人口減少に伴う国内需要の減少や高齢者の引退による農業従事者の急減など、農業を取り巻く状況は厳しさを増しています。このように我が国の食料を巡る情勢が大きく変化していることを受け、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正されました。

J Aグループ三重では、令和6年11月に開催した第45回J A三重大会において、『次代につなぐ「総合事業」と「協同活動」の基盤づくり』をスローガンに①農業生産の拡大・農業者の所得増大の実現と県産農畜産物の安定供給への貢献、②人と組織が成長する持続可能なJ A経営の確立、③組合員・利用者とともに取り組む組織・地域の活性化を最重点取組事項として決議いたしました。

厚生事業においては、通常診療に軸足を移した医療を提供し事業運営に取り組んでまいりました。物価高騰は、本会の経営にも多大なる影響を与えており、診療報酬が抑制されるなか、各事業所の診療機能を強化し、安全で安心な質の高い医療提供体制の確立を目指し、収益の回復と将来の施設整備計画に備えた自己資本の充実に向け取り組んでまいります。

本会は、J Aグループの一員として組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。

代表理事 理事長 新貝 春紀

新年明けましておめでとうございます。新しい年の幕開けに幸せと健康をお祈り申し上げます。

昨年は、パリ五輪において45個のメダル獲得、大谷翔平選手が50本塁打・50盗塁の達成とMVPの受賞など、海外で日本の選手が活躍した一年となりました。一方、元日の能登半島地震、9月には復興を目指していた被災地に記録的な大雨被害が発生し、生活再建に向けて踏みだしたばかりの住民からは、“心が折れた”という声が聞かれました。その切実な思いは、自分にも深く突き刺さる言葉でもありました。犠牲になられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、1日も早い復興を願います。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの戦争、各地域で多発する紛争、争いの絶えない世界に変貌してしまいました。いつの間にか戦争が身近に迫っていたという戦前のようにならないよう、平和な社会が続くよう、国民一人ひとりが行動することが大切であると感じます。

病院経営におきましては、コロナ支援金が昨年度に廃止されたことから、令和6年度は自力で経営の回復・改善を図らなければならない、そんな年となりました。期待していた診療報酬改定は▲1.2%のマイナス改定、決められた公定価格の中で、エネルギー関連費の高騰、物価高騰、委託費の値上げ分等を吸収できない厳しい状況が続いております。しかしながら、ここ数年は凌ぐ年と位置付け、悲観的にも消極的になることなく、日々、公的医療機関としての使命・責任を果たすことが重要であると考えております。必ず、時代は変わります。

私は、厚生連の目標を大きく3点定めています。

①各病院が立地する地域で存在価値を高めること、②今以上に地域に必要な不可欠な病院になることで職員が誇りを持つこと、③本会は事業所全体での連結決算となりますが、一病院であっても生き残る力を其々の病院が持つこと。

このことを達成するため、継続して努めてまいりたいと思いますので、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。本年も、よろしく願いいたします。

以上、新年のご挨拶とさせていただきます。

「令和7年が皆さまにとって素晴らしい年になりますように」



住み慣れた場所で療養生活を支援します！ ～ 在宅療養支援診療所として届出を行いました ～

南島メディカルセンター 総務係長 北前 進也

皆さんは「在宅療養支援診療所」の存在をご存じでしょうか。

在宅療養支援診療所とは、在宅療養をされる患者さんやそのご家族が、安心して計画的な治療を受けられるように、かかりつけ医として一元的に療養管理する役割を持ち、地域で主たる責任をもって診療を行う診療所のことです。

当センターは宮崎院長の下で体制を整え、令和6年9月より在宅療養支援診療所として届出を行いました。患者さんからの連絡に24時間対応し、その求めに応じて24時間往診または訪問看護を提供できる体制を確保し、緊急時に入院できる病床を確保しています。

体制を整えることで、在宅でも充実した医療を提供することが可能になります。診療内容は診療所内と大きく異なることはありません。体温・血圧・脈拍などの測定や血液検査、尿検査を行います。また、薬の処方、注射、点滴、寝たきりの方への床ずれの処置等も行います。さらに終末期医療を自宅で希望する方へのターミナルケアも行っています。住み慣れた場所で生活を行い、人生の最期まで24時間安心できる療養生活の実現を目指しています。今後も地域密着の診療所として、周囲の医療関連機関と連携しながら患者さんやご家族の希望を叶えるべく寄り添う医療の提供に努めて参ります。

ご質問やご相談があれば、お気軽にお問い合わせください。

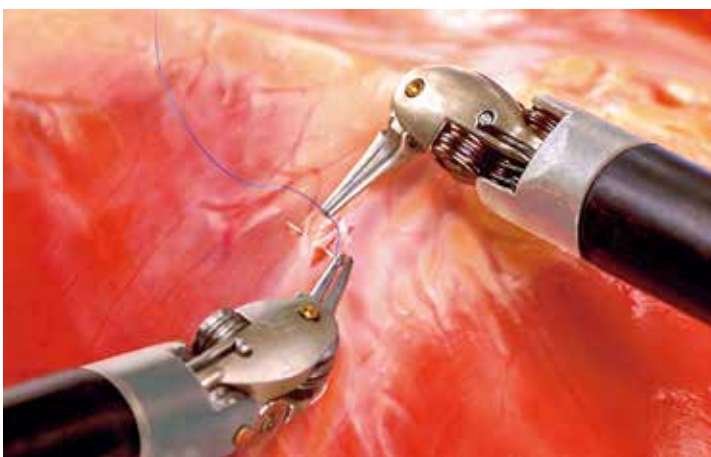


胃癌に対するロボット支援手術の開始

松阪中央総合病院 外科医長 松田明敏

松阪中央総合病院では、この度、大阪地区では初となる胃癌に対するロボット支援手術を新たに導入いたしました。

ロボット支援手術は、医師がロボットアームを操作して行うことで、従来の手術に比べて繊細な手術操作が可能となり、特に狭い手術部位での作業や複雑な切除が求められる場面での効



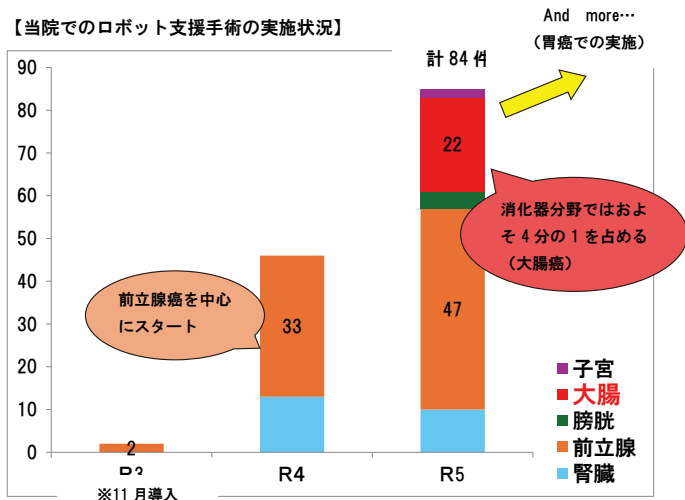
果を發揮します。また、患者さんにとっては傷口が小さく、痛みや術後の回復が早いというメリットがあります。これにより、入院期間の短縮や早期の社会復帰が期待できます。

当院ではこれまでに前立腺癌や腎臓がん、そして直腸癌や結腸癌に対して、200例近くのロボット支援手術を安全に施行してきた実績があります。胃

癌手術に関しても内視鏡外科治療認定医を中心に、腹腔鏡手術を積極的に取り入れてきました。これまで培った技術と経験をもとに、ロボット手術に限らず、地域の皆様が安心して最先端の治療を受けられる環境を整えております。今後も患者さん一人ひとりに寄り添いながら、質の高い医療を提供していく所存です。

もし胃癌と診断され、治療法に悩まれたり、手術が不安で相談したいという場合には、ぜひ当院へお気軽にお問い合わせください。ロボット支援手術をはじめ、低侵襲手術など、より良い治療が提供できるよう、全力でサポートさせていただきます。

【当院でのロボット支援手術の実施状況】



救命救急センターの活動について

松阪中央総合病院 救命救急センター長 谷口 健太郎

令和6年（2024年）10月に三重県から救命救急センターの指定を受けました。これまで、年間8,000件の救急車を受入れた実績の上で、三重大学医学部附属病院が高度救命救急センターに指定されたことに伴い、通常の救命救急センターとの役割分担を進めるとともに、東紀州医療圏などの重篤患者の受入体制を充実させるためのものです。

ただ、これが最終目標ではなくスタートだと考えています。救命救急センターの指定を受けることで担うべき役割が大きくなることに加え、救急車応需率、重傷者の受入れ件数、スタッフやハード面を含めた診療体制等、常に評価対象となります。

すでに他の救命救急センターに比べ遜色ない対応が出来る疾患群もあれば、特に重症多発外傷など、克服すべき病態もたくさんあります。一つ一つの症例を大切に、迅速に対応できる

課題、時間がかかる課題を把握し、その時にベストな対応が出来るよう検証を積み重ねることで成長を続ける救命救急センターとして地域および区域に貢献します。



お悩み相談会をはじめました

三重北医療センター 菰野厚生病院 S2F病棟 看護師長 位田 美穂

地域包括ケア病棟では、介護者の介護負担の軽減やリハビリなどを目的としたレスパイト入院を受け入れています。その中で、介護されるご家族や患者さんがたくさんのお悩みを抱えていることを知りました。そこで当院では、

困り事に対し、改善するための支援を行ってまいります。例えば、オムツの選定や当て方の指導はもちろん、レクリエーションで生活リズムを整える、またリハビリや福祉サービスの調整なども多職種とともに支援をしています。介護されるご家族や患者さんの困り事が増えると、在宅での生活が困難になることがあります。少しでも長く、住み慣れた地域で暮らしていただくために、地域の方の困り事をお聞きして、支援に繋がりたいと感じていました。

そこで、7月から在宅での困り事をお聞きする、「お悩み相談会」をはじめました。週に一度、外来ロビーにおいて師長と医療ソーシャルワーカーの2名がブースを設置し、お話を聞かせていただいています。

「夫が食事中にもせることが増えた」

「血液データの数値が改善しない」などの、病気や症状の相談や、道案内もありました。

その中で、家族にも言えなかった思いを涙を流しながら、話していただいた方もみえました。その方は「誰にも話せなかったから、話せて楽になりました」と笑顔で帰られました。また福祉用具の相談に来られた方は「誰に相談して良いかわからなかったので、良かったです」とお渡しした福祉用具のパンフレットを持って帰られました。困り事だけではなく、たくさん声を掛けていただきます。診察の帰りにふと寄っていただき、少し気持ちが和らいでいただけたらと思っています。これからも地域の方に「あそこに行けば相談できる」と思ってもらえるような場所にしていきます。



病院祭の開催について

鈴鹿厚生病院 病院祭実行委員会

令和6年10月19日、鈴鹿厚生病院第32回病院祭を開催しました。

当日の天気予報は雨でしたが、汗ばむ程の好天で開会を迎える事ができました。会場では病院祭名物亀レース、焼きそばなどの模擬店販売、チャレン

ました企業様およびボランティアの方々には厚く御礼を申し上げます。来年も皆さんに楽しんでいただけるよう様々な企画を考え、よりよい病院祭を開催したいと思っております。

ワークシヨップの開催が行われ、例年と違う賑わいが見られました。来場された方々からは「楽しかった」「また来たい」と有り難いお声を頂戴しました。開催にあたり参加頂き



▲B型事業所の工芸品販売



▲受付の様子



▲感染予防ブース



▲模擬店(焼きそば販売)

三エローマ交流会(多発性骨髄腫患者さんの交流会)を開催しました

鈴鹿中央総合病院 外来化学療法室 看護師長ががん化学療法看護認定看護師 長谷川 由美子

令和6年9月13日に、多発性骨髄腫患者さん・ご家族の交流会を行いました。

がん相談においては、三重県がん相談支援センターが、各地域で「がん患者と家族の方のおしゃべりサロン」を開催しています。そのような会に参加している

で行いました。第1部は、ミニ講義です。水谷医師、森本歯科衛生士、高橋薬剤師、看護師へと、マイクバトンが渡され、参加された皆さんは熱心にメモを取っておられました。

ときに思つのですが、「血液疾患」の患者さんは、同病の患者さんと出会うことが少なく、交流が持ちにくいといったことでした。多発性骨髄腫の治療は、治療の選択肢が増え、長期生存が可能となつてきています。その長い闘病生活を支えるには、医療者だけのサポートではなく、当事者同士だからこそ分かち合える「想い」を共有したり、体験や情報交換したりする場が必要と考えます。

第2部は、「交流会」です。患者さんそれぞれに体験、生活の工夫や副作用の症状などを語り合い、「わたしもそう!」「一緒にだ」といった、声飛び交いました。また、10年以上長い治療が継続中の患者さんを目の当たりにして、「私ももっと生きる」と力強く話してくれた患者さんの笑顔が印象的でした。アンケート結果では、「勇気をもった。」「生きる希望をもった。」「勉強になった。またよろしく。」と好評をいただきました。

参加者は、患者さん17名、ご家族8名の参加がありました。事前準備は、多職種

これからも、がん患者さん・ご家族によりよい支援を行っていききたいと思います。



▲歯科衛生士による講義風景



▲水谷副院長の講義風景



▲交流会スタッフ

くわな農業まつり2024に参加して

三重北医療センターいなべ総合病院

事務次長兼総務課長 近藤 克博



▲当院看護師による血中濃度測定及び血圧測定と健康相談



▲心地よくお腹に響く木曾崎桜太鼓演奏



▲地元中学生による爽やかな吹奏楽演奏

秋晴れの清しい天候のもと「JA みえきた桑名ライスセンター まつり 特設会場」を舞台に、令和6年11月23日～11月24日の2日間にわたって開催された「くわな農業まつり2024」に看護師と参加して来ました。催し物としては、新鮮な野菜販売、各種農機具販売、JAみえきた各支部による屋

台の出店、地元中学校による吹奏楽演奏、小中学生ダンスチームによる演舞、消防車、パトカーとのお子様記念撮影会など、大人も子供も見て参加して楽しめる催しが連日行われました。今年も多数の来場者で大盛況の中、当院のブースでは、血中濃度測定及び血圧測定を行い多数の測定希望者に訪れていただきました。

一憂する姿が見られ、測定後は食事に関する注意点や運動の仕方等質問が多数寄せられました。初対面の皆さんでしたが気さくに笑顔で会話をしていただき、こちらも非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

結果、両日で約73名の測定を行い当院の押し進めている診療の案内や健診パンフレットを手に取っていただく事が出来ましたので十分病院のPRになったと思います。

今後このようなイベントに参加し、地域皆さまとの触れ合いを大切に当院を知っていただく機会にしていきたいと思います。

全自動軟膏練り機「ひとひ練り」を導入

大台厚生病院 薬剤部



▲全自動軟膏練り機「ひとひ練り」

白色ワセリン+精製白糖・ポビドンヨード軟膏
2,000rpm, 30秒の設定で攪拌



Bfore



After

大台厚生病院薬剤部は、昨年度に全自動軟膏練り機「ひとひ練り」を導入しました。全自動軟膏練り機とは名前の通り、2種類以上の軟膏・クリーム剤を強力な遠心力をかけて攪拌・脱泡し自動で軟膏を混ぜてくれる機械です。「ひとひ練り」を使用するメリットは大きく3つあります。

まず、業務の効率化です。軟膏を量ってスイッチを押すだけで軟膏の混合ができるので手間がかかりません。また、患者さんに薬をお待たせする時間も大幅に短縮することができま。

2つ目は、軟膏の仕上がりがきれいになることです。誰が軟膏の混合调剂を行っても完成した軟膏は一定の質が保証されます。混ぜた時のムラが残る可能性も少なくなりま。

最後に衛生的に作業できることです。手動で混ぜるときに比べて軟膏を容器の外に出す時間が短いため、

埃や小さなゴミなどが混入するリスクを減らすことができます。

当院では週に2回、皮膚科外来があり、多くの軟膏の混合调剂をしています。以前は、薬剤師が軟膏板とヘラを使って混ぜていました。今回、「ひとひ練り」の導入により、薬剤部の業務の負担軽減につながり感謝しております。薬剤部では親しみの気持ちを含めて「ひとひ練り」のことを「練り子」と呼んでいます。



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

三重北医療センター 菰野厚生病院 看護部 佐々木綾子

平成27年（2015年）に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得しました。認定看護師として、回復期リハビリテーション病棟や急性期病棟に入院された患者さんやそのご家族に対し、再発リスクの高い脳卒中の危険因子である高血圧、不整脈、糖尿病や脂質異常症を適切にコントロールし、脳卒中再発予防の重要性を理解して頂くため、血圧や内服薬についての自己管理指導を重点的に行っています。

また高次脳外来（第3金曜日）では、脳卒中後遺症として高次脳機能障害が残存する患者さんやその家族に対し、病気を理解し安心して日常生活を過ごせるよう、入院中だけでなく、退院後も継続して介入し、困りごと等に対してアドバイスを行っています。

高次脳機能障害は一般的に知られるようになってきましたが、「見えない障害」と言われています。症状は個々で異なることから、個別的な関わりが必要になります。そのため、入院早期から生活場面において、どのような高次脳機能障害があるかいち早く発見し、看護援助に繋げることが認定看護師としての重要な役割です。

生活の再構築を余儀なくされる患者さんやそれを支えるご家族の代弁者として、意思決定を支援し、思いや願いを退院後の生活に反映できるよう、今後も認定看護師として多職種と協働し、質の高い看護と地域連携を積極的に行っていきたいと考えています。



患者さんの状態に応じた口腔ケアへの取り組み

大台厚生病院 3F病棟看護主任 宿 雅子

大台厚生病院では口腔ケア委員会を中心とし、個々の患者さんに合った口腔ケアが提供できるよう、またスタッフのケアの統一が図れるよう取り組んでいます。

委員会のメンバーは、歯科衛生士3名と看護師9名の12名です。週に一度、外部の歯科衛生士が来院し、毎日の口腔ケアの中で、開口が困難なためケアの介入が難しい場合や、出血傾向のある患者さんのケア方法、動揺歯の発見や義歯トラブルのある患者さんなど、様々な患者さんの口腔内トラブルに対して私たち看護師と共にラウンドし、口腔内環境の清潔改善に努めています。

委員会では、2カ月おきに病棟でのケア強化目標を設定し、スタッフへの周知を目的にポスターを作成し掲示しています。ポスターによる「見える化」はスタッフの口腔ケアに対する意識改善にも効果が期待できるのではないかと考えています。また、歯科衛生士によるミニ講習会を開催し、ケア用品の特徴や使用方法を指導してもらい、日々の口腔ケアの充実に繋げていきます。

これらの取り組みにより、各スタッフが個々の患者さんに合ったケア用品の選択ができるようになり、ケアに対する意識が高まり、日々の口腔ケアが充実したものになってきています。

今後の委員会の目標は、全ての入院患者さんに対して入院した当日から口腔内アセスメントシートを活用し、定期的なアセスメントとスタッ

フの統一した評価から、さらに患者さんに合ったケアの提供が出来るよう取り組み、口腔内環境の改善に繋げることです。

口腔ケアは、口腔内を清潔に保ち感染の予防を図ることは勿論、食事やコミュニケーションをとるなど、口腔機能の維持には欠かせないものです。自分で歯磨きが出来る患者さんで

あっても、洗面所までの移動が難しいためケアのセッティングが必要な患者さんもいます。口腔ケアは、個々の患者さんに合った環境の準備から始まります。今後も口腔ケアの充実を通して患者さんのQOL維持・向上に繋がっていきよう取り組んでいきたいと思えます。



▲歯科衛生士と患者さんの口腔ケアラウンド



▲口腔ケア委員メンバーでカンファレンス中

特定行為研修終了後の活動について

三重北医療センターいなべ総合病院 脳卒中特定認定看護師 入退院支援室 看護師長 三谷 祐子

日本看護協会看護研修学校におきまして特定行為研修を受講し、令和5年(2023年)6月に終了しました。私が受講した特定行為は在宅パッケージであり、「脱水症状に対する輸液による補正」「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」「気管カニューシの交換」「胃瘻カテーテル又は胃瘻ボタンの交換」「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」の5行為です。

研修を終了しただけでは、特定行為を実施出来ません。医師・歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるために、その指示として作成する手順書が必要であり、手順書の項目に沿って該当した際に実施可能となります。

その項目とは、【特定行為の対象となる患者】【患者の病状の範囲】【特定行為を行うときに確認すべき事項】など具体的な内容が必要であり、該当外であれば実施する事が出来ません。手順書作成に医師の協力が不可欠になります。しかし、特定行為の制度について医師に周知されていないという課題がありました。

私は研修終了後特定行為実施に向けて行ったことは、医師へ特定看護師の存在を知ってもらうことでした。気管カニューシ交換、胃瘻交換を実施するために、協働で手順書を作成し、該当患者さんに特定行為を実施させて頂きました。今では医師の方から声をかけて頂いています。まだ実施出来ない

特定行為もありますが、焦らず実施できたらと思っています。一緒に研修を終了した仲間と特定行為が実施出来ない方もいると聞いています。私の場合は、協力して頂ける医師や看護部など職場環境に恵まれており、感謝しております。

日本看護協会は、令和7年(2025年)までに特定看護師育成を10万人目標としています。令和6年(2024年)3月時点で7千人程です。目標達成には体制づくりを進めて行かなければと考えます。

特定行為研修制度をご存じですか?

専門的な知識と技術が必要とされる特定行為(診療の補助)を、研修を受けた看護師が医師の指示を受けて安全に行っています。

確かなスキルを患者さんにお届けします

病院や施設において、専門的な知識と技術が必要とされる21区分38行為の特定行為研修を行っています。

医師があらかじめ看護師に指示を行います。

ご理解とご協力をお願いいたします。

特定行為に係る看護師の研修制度



薬膳給食を始めました

三重北医療センター 菰野厚生病院 管理栄養士 仕田原 由里

薬膳とは

- 食材には「薬」と同じような効能があるとされている。
- 食材の効能に注目し、体調や体質、季節の移り変わりに合わせて上手く取り入れ、お食事でカラダの調子を整えるという考え方。

冬の薬膳

- 冬は元気に春を迎えるためにエネルギーを蓄える季節。
- エネルギーを蓄える季節。
- 根菜類、きのこ類はエネルギーを与え、免疫力を高めると言われています。

例：山芋、里芋、人参、椎茸、舞茸など

- 体を温め、冷えを予防する食材をとりまじょう。

例：生姜、にんにく、鮭、さば、えび、鶏肉、クルミなど

*今回は、10月に実施した「秋の薬膳レシピ」をご紹介します。秋の体に「うるおい」を与えるとともに、血行を促進し体を温め、消化を助けるメニューとなっています。

栄養量 (1食1人分)

- エネルギー量：692 kcal
- たんぱく質：26.5 g
- 塩分：2.5 g

生姜ごはん

【材料】(1人分)

- 米：80 g
- 生姜：3 g
- 大麦：5 g
- 酒：5 g

作り方

- ① 米、大麦を洗う。
- ② 生姜を千切りにする。
- ③ 米、大麦、生姜、酒、水を炊飯器に入れ炊飯。
- ④ 炊飯後蒸らし、器に盛る。

秋サバの味噌煮はちみつ入り

【材料】(1人分)

- サバ：80 g
- 白みそ：6 g
- 酒：3 g
- みりん：3 g
- おろし生姜：2 g
- はちみつ：3 g
- わけぎ：20 g
- クコの実：少々

作り方

- ① 調味料を合わせ、水(サバが半分浸る程度)でのばし、火にかける。
- ② クコの実をお湯でもじす。
- ③ サバを鍋に並べ、①をかけ、加熱する。
- ④ 器にサバを盛り付け、湯がいたわけぎを添え、クコの実をトッピングする。

キューブサラダ

【材料】(1人分)

- さつまいも：40 g
- 南瓜：40 g
- クルミ：少々
- ドレッシング：適量

作り方

- ① さつまいも、南瓜はサイコロに切り、蒸すかレンジで加熱する。
- ② クルミを食べやすい大きさに砕く。
- ③ ①②をドレッシングで和える。

きくらげとホタテのスープ

【材料】(1人分)

- きくらげ：0.5 g
- ベビーホタテ：10 g
- 大根：20 g
- 中華スープの素：0.8 g
- 薄口醤油：3 g
- 葱：少々

作り方

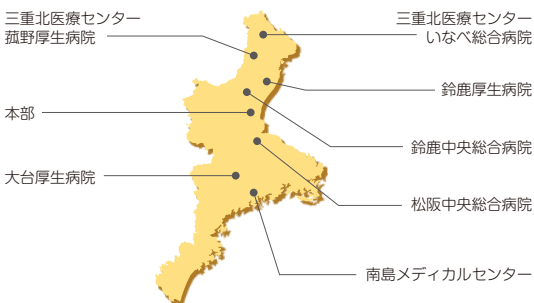
- ① きくらげを水でもどしておく。
- ② きくらげを千切りにする。
- ③ 大根は、いちよう切りなど食べやすい大きさに切る。
- ④ 湯を沸かし、きくらげ、ベビーホタテ、大根、Aを入れ、スープを作る。
- ⑤ 最後に葱を入れ、汁椀に注ぐ。

洋梨缶



人に 地域に やさしい看護

募集!! 薬剤師 看護師 介護福祉士 看護補助員



厚生連だより Vol.95

発行 / 三重県津市栄町1丁目960番地 2025.1 発行

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354
http://www.miekosei.or.jp/ E-mail: info@miekosei.or.jp